

AGORA 考工学

Mar. 3rd, 2025

「考工学」

「考古学的な」研究アプローチ

研究分野の事情や開発された経緯、歴史的な統一性や連続性など、あらゆる先入観やイデオロギーを捨て、その事実そのものの意義、他との関係や派生を考察し、研究者自身が固有の研究対象を構築する

➡ ミシェル・フーコー「知の考古学」(1969)

- ▶ 「言説」の発掘
諸々の言説、すなわち「語られるもの」の集合を、それが存在するレベルにおいてのみで記述を試みる



考工学の手法

▶ 「忘れ去られた技術」を発掘

- ▶ 現在であるからこそ可能となる**知の枠組**（≡新しい価値）を創成

▶ 「枯れた技術」を発掘

- ▶ ある分野で土着的なありふれた技術を分野横断的につなぎ合わせることで学際的な**知の枠組**を構築

▶ 「役に立たない技術」を発掘

- ▶ 合目的的ではなく「美しさ（真・善・美）」の観点から独自の**知の枠組**を抽出

外部講師講演会

- ▶ 城一裕先生（九州大学、2022.11.09）・・・「忘れ去られた技術」
 - ▶ メディア考古学
 - ▶ メディアの行方、アーカイブの行方
 - ▶ 実践することの重要性
- ▶ 磯部洋明先生（京都市立芸術大学、2023.01.16）・・・「宇宙の学際研究」
 - ▶ 宇宙物理学、宇宙天気（太陽フレア、オーロラ）→ 古文書
 - ▶ 宇宙人類学、宇宙倫理学
 - ▶ 科学コミュニケーション
- ▶ 中谷礼仁先生（早稲田大学、2023.07.31）・・・「役に立たない機械」
 - ▶ 専門は建築史
 - ▶ 演習講義での取り組みを紹介
 - ▶ 目的なき合目的性
- ▶ 松山桃世先生（東京大学、2024.01.29）・・・「ひみつの研究道具箱」
 - ▶ 科学コミュニケーション／パブリックエンゲージメント
 - ▶ 異なる分野・技術をつなぐ → 社会貢献
 - ▶ 東大生産研の研究と、そこから遠いコミュニティを巻き込むことを見据え

外部発表

▶ 「お寺で宇宙学」

@ 浄慶寺

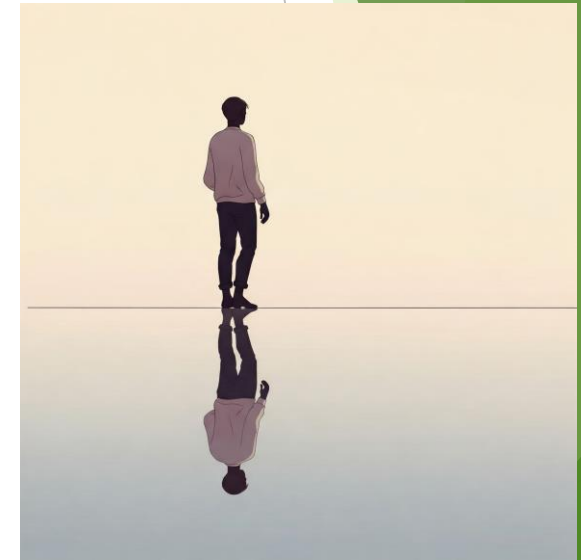
2023.11.10



日頃の研究の取り組みとは異なる「何か」

▶ ≡ 人間（研究者）が感じる「美」？（次頁）

- ▶ 過去の経緯やイデオロギーなど全てをはぎ取った後に残るもの
 - ▶ 研究対象を理解しつつして、そこで初めて発見できる
- ▶ 人間が何か行動に出るときに突き動かすもの
 - ▶ 日頃の研究活動からどんどん脱線していき異なる発見を探す
- ▶ 工学系ではすべてが合目的的、それを達成できた瞬間こそ「美」
 - ▶ 如何に「スマートに」それを達成するか？ か？
- ▶ これらは本質的に同じものか？



- ▶ 研究者はそれぞれの内面（ウラの世界？）にある何らかの「美」によって動かされている
- ▶ 「確固たる研究計画」の途上ではなく、「まさに今この瞬間」に感じることができる（フーコー）

考工学の成果

- ▶ 東大寺南大門における古代建築手法の解明（科研費研究として立ち上げ）
- ▶ Lablogsによる実験活動のアーカイブ
- ▶ サンシャイン計画で注目されていたカーボン液化技術研究の推進
- ▶ 忘れ去られていた化学測定技術の実践（分子双極子モーメントの測定技術）
- ▶ 実験計画法と機械学習を組み合わせた大規模計算機シミュレーション

今後の展開

▶ (サロン型) AGORAへと展開

- ▶ 主要な参加者：先導プロジェクト研究者（高木先生、清水先生、則末先生、・・・）など
- ▶ 実施要領：
 - ▶ 2～3回/年
 - ▶ 主要メンバーの研究紹介、学内の他研究者を招待
 - ▶ 参加者が自分に近い分野で面白そうな外部講師を招待
 - ▶ 学内講演会としての開催も可
 - ▶ Etc.